ともに立ち、向かう
岐阜協立大学
GIFU KYORITSU UNIVERSITY

2026.10
VOL.110

GKU NOW



つながる学び、ひろがる未来。

地域での出会いが、学生の学びと成長につながっていく。

特集

「地域共創大学」を“構想”から“実装”へ ／2-3
地域企業と学生をつなぐ「よりみちキャリアカフェ」／4-5
地域と子どもをつなぐ「みんなのワクワクキャンパス」／6-7

教務課だより ／ 8
キャリア支援課だより ／ 9
News＆トピックス ／ 10-11
データで見るGKU ／ 12

岐阜協立大学は地域共創大学へ！

地域とともに学び、地域とともに未来をつくる



学長
原田　理人

地域には、人口減少や若者の流出、産業の担い手不足、医療・福祉、健康、防災、スポーツ、多文化共生など、さまざまな課題があります。こうした課題に向き合うためには、大学だけでも、地域だけでも十分ではありません。企業、自治体、医療・福祉機関、教育機関、地域団体などが、それぞれの知識や経験、力を持ち寄ることが重要です。

岐阜協立大学には、経済、公共政策、経営情報、スポーツ経営、看護などを学ぶ学生と、それぞれの専門分野を持つ教員がいます。これまでにも、講師派遣や公開講座、インターンシップ、ボランティア活動などを通じて、地域とのつながりを築いてまいりました。

これから本学が目指すのは、こうした「地域連携」をさらに一歩進めた「地域共創」です。

地域の課題を学生の学びにつなげ、学生が地域の現場で学び、考え、行動する。そして、学生の学びを地域の力に変え、そこで生まれた成果を次の教育や地域の未来につなげていく。こうした「学び」と「地域の課題解決」が循環する仕組みをつくることが、岐阜協立大学の考える「地域共創」です。

そのためには、大学が地域に一方的に貢献するのではなく、地域を教育・研究のパートナーとして捉えることが重要です。地域の課題を教材とし、企業や自治体などとともに課題解決に取り組むことで、学生は実社会で必要となる実践力を身につけることができます。

同時に、地域にとっても、学生や教員の知識・専門性を活用することで、新たな視点やアイデアが生まれます。こうした相互の学びと成果を積み重ねることで、大学と地域がともに成長していく関係を築いていきます。「地域とともに学び、地域とともに育ち、地域の未来を共につくる」ことが、岐阜協立大学が目指す「地域共創大学」です。

建学の精神

創造発見
知才涵養
資質発揚
地域貢献

社会的使命

創知資地
（知を創り、地に資する）

地域の課題が、学生の学びになる

地域共創では、学生が地域に出て、実際の課題に触れることを大切にします。

企業や自治体、医療・福祉機関、スポーツ団体などと一緒に課題を発見し、学生が大学で学んだ知識を生かして解決策を考えます。こうした実践を通じて、学生は「知識を身につける」だけでなく、「知識を社会で使う力」を身につけていきます。

一方、地域にとっても、学生の新しい視点や発想、大学の専門知識が、新たな事業や地域活動、課題解決につながる可能性があります。

つまり、「学生が地域で学ぶことが、そのまま地域の力になる。地域での経験が、学生の成長につながる」

この双方向の関係をつくることが、地域共創の基本となります。

6つの分野から地域共創を広げる

本学では、地域を支える人材育成を基盤として、地域産業との実践教育、スポーツを活用した地域振興、学生主体の地域活動、多文化共生・国際交流、そして大学を地域の共創拠点とする取り組みを進めていきます。企業との課題解決型学習、自治体との地域政策、スポーツを活用した健康・地域づくり、看護・医療・福祉分野での地域活動、DXや防災、観光など、地域が抱えるさまざまなテーマを学生の学びと結び付けていきます。その中で学生が地域の人々と出会い、地域を知り、課題を発見し、ともに解決策を考える。そして、卒業後には地域で活躍する人材として地域社会を支えていくことを目指します。

「地域を知る → 地域で学ぶ → 地域と課題を発見する → 地域と解決する → 地域で成長する → 地域で働く」
この循環を、岐阜協立大学の新しい学びの姿として定着させてまいります。

REGIONAL CO-CREATION UNIVERSITY VISION

地域共創大学構想

実現を目指す 5 つの大学像

1. 地域を学びのフィールドとする大学
2. 地域課題を教育に取り込む大学
3. 地域と新しい価値を創る大学
4. 地域人材を循環させる大学
5. 地域の未来を共創する大学

岐阜協立大学版「地域共創サイクル」



地域共創クロッシング｜4つの接続

高校との接続	探究型学習支援・出前授業など
企業との接続	共同研究・課題解決型PBLなど
自治体との接続	EBPM・地域政策形成支援など
卒業生との接続	地域人材の循環ネットワークなど

地域共創大学構想を牽引する7つの重点プロジェクト

1. 地域産業共創
2. 地域スポーツ共創
3. 地域健康・看護共創
4. 地域政策共創
5. 地域DX共創
6. 地域防災共創
7. 地元人材定着促進

「創知資地」を地域の未来へ

岐阜協立大学は、開学以来、建学の理念として「創知資地―知を創り、地に資する」という社会的使命を掲げてきました。

大学で生まれる知識や人材を地域のために生かし、地域から得た課題や経験を、さらに教育や研究へと還元する。大学と地域が一方通行ではなく、互いに学び、互いに成長する関係をつくることが、これからの本学に求められる役割だと考えています。

大学だけでは、できないことがあります。また、地域だけでは、解決できないこともあります。

だからこそ、大学と地域が共に考え、共に学び、共に行動する。

地域の課題を「学び」に変え、学生の成長を「地域の力」に変え、その成果を「地域の未来」につなげていく。さらに、そこで生まれた新たな知を、次の教育や研究へと還元する。

「地域の課題」から「学び」が生まれ、「学び」から「人」が育ち、「人」の成長が「地域の力」となり、そこから新たな「知」が生まれる。この循環を地域とともにつくっていくことこそ、岐阜協立大学が目指す「地域共創」です。「地域と共に学び、地域と共に育ち、地域と共に未来をつくる」

「創知資地」の理念を、これからの時代にふさわしい形で実践し、
「この地域に岐阜協立大学があってよかった」と信頼される大学へ。

それが、私たちの目指す「地域共創大学」なのです。

特集　地域と学生をつなぐ「よりみちキャリアカフェ」

よりみちから、未来が見えてくる。



学内でふらっと立ち寄り、
地域企業の担当者と直接話せる「よりみちキャリアカフェ」。
会社説明や先輩社員との懇談を通して、学生が業界や仕事を知り、
自分のキャリアを考えるきっかけをつくっています。

企業と話す。仕事を知る。

よりみちキャリアカフェは、学生が学内で企業の担当者と直接話し、仕事内容や業界の特徴、地域で働くことの魅力などを知ることができるキャリア形成企画です。

就職活動を始める前から社会との接点を持つことで、学生がさまざまな業界や職種を知り、自分の興味や将来の選択肢を広げることを目的としています。

2026年度前期は全9回開催し、地域企業を中心に36社が参加しました。学生の参加者数は延べ719名となり、多くの学生が企業担当者との対話を経験しました。企業のホームページや資料だけでは分からない実際の仕事内容、仕事のやりがい、職場の雰囲気などを直接聞くことで、学生にとって企業や仕事をより身近に感じる機会です。

また、企業側にとっても、学生の考えや関心に直接触れ、自社の仕事や地域で働く魅力を伝える場となっています。

企業や社会人と関わる経験を大学1・2年生の段階から重ねることで、学生が「どのような仕事をしたいのか」「どのような環境で働きたいのか」「そのために大学で何を学ぶのか」を、自分の言葉で考えられるようになることを目指しています。

今後も、地域企業との連携を深めながら、学生が幅広い業界や働き方を知り、納得できる進路を主体的に選択できるよう支援していきます。







マイナビキャリアサポートに掲載

本学キャリア支援課へのインタビュー記事が「大学事例」として公開！
2025年度から実施したキャリア教育改革「低学年次からの企業交流でキャリア形成の質を高める」取り組みが詳しく紹介されています。

前期開催実績

開催日		参加企業	参加学生数
第1回	5月12日	岐阜プラスチック工業、インフォファーム、米津物産	延べ48名
第2回	5月20日	Itreat、佐竹鉄工、大垣警察署、自衛隊	延べ141名
第3回	5月29日	トーカイ、関信用金庫、大垣精工	延べ60名
第4回	6月３日	台風のため中止	
第5回	6月８日	岐阜トヨペット、中部事務機、田口鉄工所、中部興産	延べ102名
第6回	6月18日	濃尾電機、ジーエフシー、東海サーモ、山辰組	延べ49名
第7回	6月23日	マルエイ、アピ、森松工業、藤井ハウス産業	延べ66名
第8回	7月２日	J-MAX、天木鉄工、東洋スタビ、ブロンコビリー	延べ41名
第9回	7月７日	岐阜市役所、JAぎふ、岐阜バス、犀印、CCN、テクノア	延べ141名
第10回	7月10日	トヨタカローラネッツ岐阜、EMD、オークワ、丸石	延べ71名

前期合計 参加企業36社、参加学生延べ719名

企業担当者と学生が同じテーブルを囲み、気軽に交流しながら、就職やキャリアへの理解を深める学内イベント。毎回異なる業界・企業を迎え、1年生を含む幅広い学年が参加しています。



学科・学年別参加状況（前期累計）

学科	1年生	2年生	3年生	4年以上	合計
経　済　学　科	75	34	82	1	192
公 共 政 策 学 科	—	4	23	1	28
経 営 情 報 学 科	61	79	124	6	270
スポーツ経営学科	14	142	62	5	223
看　護　学　科	6	—	—	—	6
合　　計	156	259	291	13	719

参加学生の声

・知らなかった地域企業の強みを知ることができた。
・授業や就活本では学べないリアルな話が聞けた。
・将来の仕事について考えるきっかけになった。
・企業の方から直接話を聞ける貴重な機会だった。
・就職活動への意識が高まった。
・自分のやりたいことが少し見えてきた。
・プレッシャーなく社会人と話せた。
・業界のイメージが変わった。

近距離での対話がリラックスした雰囲気を生み、普段は消極的な学生も質問や意見を表明できた事例が見られました。

参加企業の声

・学年問わず多くの学生の方々との接点を持つことができた。
・キャリア教育の授業の一環にもなったことで、２・３年生の参加率が高く、通常の説明会では交流が薄い層にもアプローチができた
・１年生が想像以上に多く、就活への意識の高さを感じた。
・学生ファーストで対応しているところに好感が持てた。
・学生の傾聴スキルの高さが印象的。
・学生と対等な立場でリアルな職場の話ができた。
・就活の前に気軽に業界を知ってもらえる場として有意義だった。

アンケートに回答した全社が「満足」または「とても満足」と回答、後期の継続参加を希望しており、地域企業との継続的な関係構築の基盤が形成されています。

対話から、自分の未来を考える ―― 次の「よりみち」が、新しい出会いになる。

大学 × 地域

大学が、まちの「居場所」になる







地域とともにつくる「みんなのわくわくキャンパス」

子どもたちが安心して過ごし、大学生や地域の人々と交流できる場所をつくりたい——。

岐阜協立大学自治体財政研究会は、NPO法人くすくすと連携し、大学キャンパスを活用した子どもの居場所づくり事業「みんなのわくわくキャンパス」を実施しています。

2024年6月に始まったこの活動は、中川小学校区の小学生を主な対象として、月1回の頻度で開催。大学の施設や学生の力を生かし、子どもたちが楽しみながら、さまざまな人とつながることのできる場所を目指しています。





大学にしかない「ヒト」と「モノ」を生かして

活動では、キャンパス内を巡るスタンプラリーや謎解きゲーム、教員の研究室訪問、学園祭での作品展示や模擬店への参加など、大学を舞台にした企画を行ってきました。

ちぎり絵やペットボトルキャップを使った看板づくり、アドベントカレンダー、バルーンアートによるクリスマスリースづくりなど、季節を感じられる企画も取り入れています。

決められた企画だけでなく、折り紙や塗り絵、カードゲーム、風船バレーなど、子どもたちが自分で遊びを選び、自由に過ごせる時間も大切にしています。

安心 安全 学生たちの大切な学び

大切にしている 安心・安全な環境づくり

想定されるリスクをできる限り減らすため、定員20名に対して25名以上の学生ボランティアが参加する運営体制を整えています。



また、学生29名が大垣消防組合による救急救命講習を受講・修了。活動前には学生同士で打ち合わせを行い、注意事項や子どもたちへの対応を確認しています。

バスを利用する子どもには学生が小学校から大学まで同行し、移動経路を保護者に事前に案内。保護者への確認事項を設けた予約システムの運用や、ボランティア規約の作成、個人情報を取り扱う担当者の限定など、さまざまな面から安全管理に取り組んでいます。

学生たちは子どもたちと一緒に遊ぶだけでなく、活動を安全に運営するために必要な準備や責任、保護者との連携についても実践的に学んでいます。









見えてきたこと

活動を通して学生たちが学んだのは、子どもたちが大学生をはじめとする多様な人と関わることの大切さです。

一方で、参加希望者が増える中で、安全を確保しながらどこまで受け入れるのか、子どもたちの声をどのように活動へ反映するのか、継続して運営するために何が必要なのかといった課題にも向き合っています。

大学という場所だからこそできることがある一方、大学の立地や学生主体の運営だからこその限界もあります。地域には、それぞれ異なる役割や特徴を持つ、多様な居場所が必要であることも、活動を通して得られた大切な学びです。



岐阜新聞 2026年4月1日付掲載

多世代つながる大学に

岐協大生団体が「わくわくキャンパス」

10日に第1回 小学生と宝探しゲーム

申し込み用QRコード

「子どもの居場所」から「みんなの居場所」へ

「みんなのわくわくキャンパス」は、大垣市の支援を受け、NPO法人くすくすから活動への助言を得ながら、中川小学校、中川自治会、大垣市社会福祉協議会などと連携して実施しています。23回目の活動では、NPO法人くすくすのプロジェクトと連携し、小学生に加えて未就学児とその家族も参加しました。

子ども家庭庁は、地域全体で「はじめの100か月」のこどもたちの育ちを支える環境づくりのため、「地域コーディネーター」の養成をすすめており、今年度は5人の学生が講座を受講し、実際に企画を実施することで、その課程を修了する予定です。

子どもたちだけでなく、学生、家族、地域のさまざまな世代が集まり、つながることのできる場所へ。大学の「ヒト」と「モノ」を地域に開き、安心して過ごせる「みんな」の居場所を育てます。

▲ 詳しくはコチラから

小学校教員を目指す学生インタビュー

二人の学生が語る、学びと教育への思い



山下 悠太さん
経営学部
スポーツ経営学科4年

Q. 教員を目指したきっかけを教えてください
中学時の体育のマット運動で、先生が私の「できた」を自分のことのように喜んでくれたことが印象に残っています。当時の私のような喜びを、児童や生徒にも味わってほしいと思い教員を志しました。

Q. なぜ小学校の先生を目指しましたか
入学当初は中学の体育教員志望でした。しかし、教育体験ボランティアなどで低学年への運動指導を経験し、できた喜びや成長をより多く共有できるのは小学校だと強く感じ、小学校教員を目指すようになりました。

Q. 特に苦労したことと、その乗り越え方は？
最も苦労したのは、陸上競技部の活動と教職課程の両立です。分からないことは、一緒に学ぶ日比さんや、同じ課程を履修した先輩に相談し、課題の進め方などを教えてもらいながら乗り越えました。

Q. 本学の教職課程で学んだことで、教育実習に役立ったことはありますか
生徒の立場に立ち、目線を合わせて話すことを、ゼミなどの活動を通して学びました。教育実習でそれを意識すると、生徒も同じ立場に立つような感覚で話してくれました。信頼関係を築くことにもつながったと感じています。

Q. 教育実習を経験して、どのようなことを感じましたか
一つ目は、一人ひとりに合わせて指導することの大切さです。全員が楽しめる授業をつくるためには、日頃から一人ひとりをよく観察する必要があると学びました。二つ目は、コミュニケーションの大切さです。観察と声かけを意識したことで、生徒との信頼関係を築くことができました。

Q. どのような先生になりたいですか
「できた」という喜びや、学ぶ楽しさを味わってもらえる先生になりたいです。大学での学びを活かし、自分から一人ひとりに積極的に関わりながら、コミュニケーションを大切にして、理想の教員像に近づけるよう努力していきたいです。

Q. これから教員を目指す後輩へ、メッセージをお願いします
教職課程を履修しながら、部活動にも取り組む人は、メリハリをつけて学ぶことが大切です。私は、時間の使い方を工夫し、オンとオフを明確にして取り組めたことがよかったです。時間を大切に頑張ってください。



日比 健仁さん
経営学部
スポーツ経営学科4年

Q. 教員を目指したきっかけを教えてください
小学校時代にいじめに苦しんでいた際、恩師の声かけや支援によって乗り越えられた経験がきっかけです。

Q. なぜ小学校の先生を目指しましたか
人間形成に重要な時期である子どもたちの成長を、間近で見守ることができる点に魅力を感じました。恩師から受け取った愛情や、安心できる居場所を、今度は自分が子どもたちに届け、次の世代の教育に貢献したいです。

Q. 特に苦労したことと、その乗り越え方は？
駅伝部の活動、教職課程、佛教大学の通信教育課程を両立です。支えになったのは、本学の教職課程の先生方と、一緒に学んだ山下さんです。二人でレポートや課題の提出期限、必要な単位数などを確認し、協力して進められたことが、大きな力になりました。

Q. 本学の教職課程で学んだことで、教育実習に役立ったことはありますか
教育相談の授業と、ゼミや体育授業インターンシップなどで子どもたちと関わった経験です。相手の話を丁寧に聴くことで、互いに目線を合わせて話せる関係を築くことができました。

Q. 教育実習を経験して、どのようなことを感じましたか
実習は、授業や生徒との関わりが思うようにいかず、悩みながら試行錯誤する日々でしたが、生徒の笑顔や興味・関心、達成感に触れたときには、努力してきてよかったと心から思いました。教員になりたいという思いが一層強くなりました。

Q. どのような先生になりたいですか
恩師から受け取った愛情を生かし、子どもたちに寄り添い、ともに学び、高め合える教員になりたいです。

Q. これから教員を目指す後輩へ、メッセージをお願いします
教員を目指し、教職課程を学び続けるには覚悟が必要です。夢を追う中では必ず壁にぶつかると思いますが、力になってくださる教職員の先生方、大学で出会った仲間、頼りになる先輩の力を借りながら、協力して壁を乗り越えてほしいと思います。いつか同じ教育現場で一緒に働けることを楽しみにしています。応援しています。

教員を目指す君へ、「教育・サポート」

取得できる教育職員免許状

本学にて卒業に必要な単位数に加え、教員免許状に必要な単位数を取得する事で、卒業時に教員免許状を取得する事が可能です。取得できる免許状の種類は下記の通りです。

	経済学部		経営学部	
	経済学科	公共政策学科	経営情報学科	スポーツ経営学科
中学校教諭一種免許状	社会	社会		保健体育
高等学校教諭一種免許状	公民・商業	公民・福祉	商業・情報	保健体育・商業

通信課程による教員免許状	**小学校教諭一種免許状**（連携校：佛教大学通信教育課程） **小学校教諭二種免許状**（連携校：佛教大学通信教育課程） **特殊支援学校教諭一種免許状**（連携校：星槎大学共生科学部通信教育課程）

サポート体制

教員採用試験対策 専門家・教員経験者による講座	自分のペースで学修可能 教職センター室
教員になった卒業生が親身にアドバイス 教職過程OB・OG座談会	教育実習前に実施 中学校1日研修会

奨学金制度

通信教育課程における制度を利用した学生のうち、本学4年次に於いて、12月末の時点で協定大学における単位を8割以上取得した学生に、16万円を上限とし協定大学が定める学費の50%相当額を補助します。

「自分を知り、社会を知る」

「キャリア形成Ⅲ」で踏み出す、未来への一歩

自分にはどのような強みがあるのか。社会にはどのような仕事があり、そこで働く人は何を大切にしているのか。
経済学部・経営学部の3年次生を対象とした「キャリア形成Ⅲ」では、「自分を知る」ことと「社会を知る」ことを結びつけ、学生一人ひとりが自分らしい進路を考えるための授業を行っています。

4月
PROGテストを受検

5月
結果を振り返り、
自分の強みや課題を知る

6月
企業・自治体・団体の話から、
業界や仕事を知る

自分を知る ― PROGテスト解説会



PROGテスト解説会を2026年5月に開催。学生は4月に実施したPROGテストの結果をもとに、自分の強みや課題を確認しました。
株式会社リアセックの米田光明氏を講師に迎え、解説を聞き、ペアワークを通して、お互いの良いところを伝え合う活動も実施。他者から見た自分の長所を知ることで、自分では気づかなかった強みを発見し、就職活動に向けて自己理解を深めました。

社会を知る ― 岐阜新聞社連携・業界研究講座





6月には、岐阜新聞社と連携した「業界研究講座　クロストーク型イベント」を全3回開催。キャリア形成Ⅲを受講する3年次生約300名が参加しました。
製造業、金融・公務、流通・サービス・ITの各分野から、計11の企業・自治体・団体が登壇。仕事内容や業界の特徴、担当者自身の就職活動時の経験、入社の決め手、入社前後に感じたギャップ、仕事を通して成長した経験などが語られました。
企業説明会では聞くことのできない「働く人のリアルな声」に触れることで、学生たちは業界や企業をより身近に感じ、自分の将来を考えるきっかけを得ました。

全3回の開催内容

第1回	6月16日	製造業	㈱岡本（ナベヤグループ）、福田刃物工業㈱、岐阜ギヤー工業㈱、ミズタニバルブ工業㈱
第2回	6月23日	金融・公務	岐阜県（産業人材課）、大垣西濃信用金庫、関信用金庫
第3回	6月30日	流通・サービス・IT	㈱バローホールディングス、㈱エスラインギフ、(一財)岐阜県市町村行政情報センター、㈱AIアクティブ

自分らしい進路を考える

自分の強みや大切にしたいことを理解し、さまざまな業界や仕事、そこで働く人を知ったうえで、自分らしい進路を選ぶこと。授業と社会との接点を通して、学生一人ひとりが自分の未来を具体的に考え、一歩ずつ前へ進むためのキャリア形成を支援します。

オンライン就活もサポート！

「GKUキャリアBOX」をぜひご活用ください





2号館1階のキャリア支援課内に、防音設備を備えた1人用の個室型ワークブース「GKUキャリアBOX」を2台設置しています。
オンライン企業説明会やオンライン面接など、静かな環境で集中して臨みたいときに利用できます。
在学生の皆さん、オンラインでの就職活動にぜひご活用ください。利用を希望する場合は、キャリア支援課へお尋ねください。

「未来発見インターンシップフェア」を初開催！

2026年6月10日（水）、本学3号館2・3階にて、「未来発見インターンシップフェア」を開催しました。本イベントは、キャリア形成Ⅱ（2年生対象）・キャリア形成Ⅲ（3年生対象）の正課授業の一環として実施し、経済学部・経営学部の2・3年生約600名が参加しました。参加した学生にはインターンシップへの参加意欲や業界理解を深める機会となりました。本学キャリア支援課では、引き続き学生の主体的なキャリア形成をサポートするため、様々な取り組みを推進します。

参加企業

製造	佐竹鉄工㈱、ミズタニバルブ工業㈱、森松工業㈱、アビ㈱、大垣精工㈱、日本耐酸壜工業㈱
金融・建設	東濃信用金庫、安田電機暖房㈱
商社・情報通信	中部事務機㈱、ジーエフシー㈱、サンラリーグループ、㈱EMD、㈱ITreat
物流・運送	中部興産㈱、西濃運輸㈱
小売・サービスその他	生活協同組合コープぎふ、㈱ファミリー、岐阜トヨペット㈱、㈱サカイ引越センター、濃飛乗合自動車㈱（濃飛バス）、㈱近鉄・都ホテルズ 都ホテル岐阜長良川、㈱ひだホテルプラザ、㈱アスピカ、㈱トーカイ、矢橋ホールディングス㈱、アヤハグループ
公務	防衛省・自衛隊、岐阜市消防本部、海津市役所、郡上市雇用対策協議会



1年次生207名がジョブシャドウイングに参加

教育目的「地域に有為の人材を養成する」を実現するため、1年次からキャリア形成教育に力を入れています。2026年7月27日（月）から31日（金）にかけて、キャリア形成Ⅰの講義の一環としてジョブシャドウイングが実施され、経済学部・経営学部に在籍する207名の1年次生が参加しました。
「ジョブシャドウイング」は米国で定着している職業教育の一つ。幅広い業界にご協力いただき、半日程度、企業に赴いて従業員に密着し、職場での仕事ぶりを観察する、というもので、さまざまなキャリア選択が存在することに気づくためのキャリア探索活動です。





今年度、実施されたジョブシャドウイングプログラム

岐阜県岐阜コース	製造業	藤井ハウス産業㈱（養老町）、ANDO㈱（池田町）、森松工業㈱（本巣市）、岐阜プラスチック工業㈱（岐阜市）
	卸売業	㈱大光（大垣市）
	金融業	岐阜商工信用組合（岐阜市）
	情報サービス業	㈱インフォファーム（岐阜市）
	宿泊業	都ホテル 岐阜長良川（岐阜市）
	消防	岐阜市消防本部（岐阜市）
岐阜県東濃コース	製造業	豊実精工㈱（富加町）、若尾製菓㈱（美濃加茂市）
	金融業	東濃信用金庫（多治見市）
滋賀県コース	製造業	夏原工業㈱（滋賀県彦根市）
	運輸業	近江鉄道㈱（滋賀県彦根市）
	金融業	滋賀中央信用金庫（滋賀県彦根市）

「サマーフェスティバル（中川）」で地域交流

2026年7月31日（水）、中川ふれあいセンターにおいて「サマーフェスティバル（中川）」が開催。本学看護学部および経営学部の学生が参加し、血圧測定や骨密度測定、子ども運動あそびや西濃かるたなどを実施。子どもから高齢者まで幅広い世代と交流しました。
今後も学生の学びを地域社会へ還元する活動を積極的に推進します。





マイスター倶楽部の学生が「水都まつり」に参加

2026年7月31日（金）から8月2日（日）の3日間、大垣駅南側一帯の商店街で開催された「水都まつり」にマイスター倶楽部の学生が延べ50名あまり参加し、大垣駅前商店街振興組合の皆さんと「納涼レストラン」を出店しました。夕方から涼を求めてお祭りに訪れた多くの方々に、フランクフルト、焼き鳥、かき氷や飲料等を楽しんでいただきました。
今後も商店街の活性化に向けたまちづくり活動や地域貢献に取り組みます。





外国人留学生対象「就職キャリアセミナー」を開催

2026年7月2日（木）、岐阜県商工労働部産業人材課との共催により、外国人留学生を対象とした「就職キャリアセミナー」を開催しました。本学に在籍する外国人留学生109名のうち、約70名が参加し、日本での就職活動の実情について理解を深めました。
行政・大学・企業が連携してキャリア支援を届ける本取り組みは、岐阜における外国人材活躍の新たなモデルを目指すものです。今後も外国人留学生が日本でのキャリアを実現できるよう、関係機関と連携した支援を続けます。



経営学部の合同プロジェクトが大垣市の「学生提案事業」に採択されました！

本学のソフトピア共同研究室と経営学部・市川ゼミによる合同プロジェクトが、大垣市の「学生提案事業」に採択されました。本プロジェクトは、自作カードゲーム「西濃かるた」の魅力発信と、かるたを活用した地域の観光促進を目指して活動します。
今年度は、大垣市内の小学校や各種イベントにおいて「西濃かるた体験会」を開催し、地域魅力の発信効果や、実際の観光地への来訪促進効果について、検証・分析を行います。



商店街で「まちなかロゲイニング」を実施

本学経済学部では「地域実践型アクティブラーニング」を重視。1年次基礎演習では、地域を知ること、地域連携活動を実践する学内団体の体験学習を目的として、フレッシュマン・エクスカーションを実施しています。
2026年6月、地域連携・地域貢献活動に取り組む「マイスター倶楽部」の学生が商店街で「まちなかロゲイニング」を企画・実施し、経済学部1年次生50名が体験学習として参加しました。
地域への関心を深め、学びを地域に還元するための活動の実践、また大学での仲間づくりにつながりました。





【看護学部】精神看護学演習「当事者交流会」

精神の健康障がいをもつ当事者のこれまでの生きづらさや苦悩、強みなどの理解、当事者の地域での生活の理解などを目的に、ピアサポーターとしてご活躍されている当事者の方をゲストに招いて当事者交流会を開催いたしました。



【看護学部】精神看護学演習「コラージュ療法」

コラージュ（collage）とはフランス語で糊付けを意味します。学生はコラージュ療法を体験することで、自己理解に基づいた自己の活用について学びました。



太平洋工業株式会社様と連携し産業保健実習を実施

看護学部の保健師課程では、今年度より地域企業と連携した産業保健実習を開始しました。今回は太平洋工業株式会社様にご協力をいただき、学生たちは働く人々の健康を支える産業保健師の役割や、企業における健康管理の実際について学びました。



地域金融機関と学ぶ「企業・業界研究Ⅰ」

経済学部2年次生を対象とする前期科目「企業・業界研究Ⅰ」では、大垣西濃信用金庫、十六フィナンシャルグループ、株式会社大垣共立銀行の3金融機関にご協力いただき、地域金融機関の姿に迫る授業を行いました。各社の講義は3回ずつ、あわせて9回。企業概要から業界動向、成長戦略、地域貢献まで学び、店舗見学で現場の雰囲気も体感しました。



クリケット部が朝日新聞に掲載



6月19日の朝日新聞全国版スポーツ面にて、クリケット部の記事が掲載されました。クリケット部は、2025年に創部された部活動です。国籍や経験を問わず、クリケットに興味のある方や、新しいスポーツに挑戦したい方を歓迎しています。
本学では、国際交流を大切にしています。クリケットというスポーツを通じ、留学生と日本人学生がお互いの文化に触れ、交流が深まることを期待しています。


工場で 大学で クラブ創設
南アジア出身者らの挑戦を応援

入試広報課・高堂さんが、世界マスターズ陸上で優勝！

高校訪問などを通じて、本学の魅力を伝えている入試広報課の高堂さん。2026年8月、韓国・大邱で開催の世界マスターズ陸上競技選手権大会・男子M35三段跳で、13m97（+0.3）を記録し、優勝しました。



本学学長が岐阜県経済同友会にて講演

令和8年8月5日（水）、岐阜グランドホテルにて開催された岐阜県経済同友会の懇談会に本学の原田理人学長が講師として登壇。
講演では、「崩れゆく人材市場―採用努力では解決しない時代の戦略転換―」と題し、企業と大学が連携して学生の育成に在学中から関与することの重要性が高まっていることに触れ、大学での産学連携による人材育成を紹介しました。


講演する原田理人学長＝岐阜市長良・岐阜グランドホテル
採用活動テーマに 岐協大学長が講演
県経済同友会懇談会
県経済同友会は5日、大学と行政関係者を交えた「産学官懇談会」を岐阜市内のホテルで開き、岐阜協立大の原田理人学長が「崩れゆく人材市場―採用努力では解決しない時代の戦略転換―」と題し講演した。
原田学長は少子化と人口減少で、採用活動での企業の立場は「選ぶ側から選ばれる側に変化した」と指摘。企業は大学と連携して学生の育成に在学中から関与することで「人材を育てる側に回っている」と解説した。大学の文化祭や地域の祭りなどで企業と大学が連携して成果を上げている実例を紹介し、「市場原理は学生に選ばれる側に変わるチャンスでもある」と語った。



大学広報誌(GKU Now)は本学公式HPをご覧ください

◀バックナンバーもご覧いただけます

キャンパスから地域へ、そして未来へ。
情熱をエネルギーに変えて、
私たちは走り続ける。

GKU公式インスタ
大学生活のリアル

「新しいことに挑戦したい」「大好きなことを究めたい」「スポーツに汗を流したい」――。
キャンパスを彩る数々の熱意はこの地域を、その先の未来を元気に変えていく。
新しい自分と、最高の仲間に出会う場所。未来のあなたの居場所を、ここから見つけてみませんか？

硬式野球部
大学野球　# 一球同心

陸上競技部
一瞬の青春　# 自己ベスト

サッカー部
チームの絆　# 蹴球

駅伝部
鍛錬の先の栄光　# つなぐ楽しさ

男子バレーボール部
バレー好き　# 繋げ青春

女子バレーボール部
ライブ配信あり　# バレー女子

女子ソフトボール部
最高の仲間　# ベンチの熱量

クリケット部
初心者歓迎　# 新感覚の爽快感

学園祭実行委員会
岐協祭　# 祭りのウラ側

アスリート育成クラブ
（陸上競技部門）　# スポーツの基本



岐阜協立大学　〒503-8550 岐阜県大垣市北方町5-50　TEL 0584-77-3511　FAX 0584-77-3506　URL https://www.gku.ac.jp/　E-mail soumu@gku.ac.jp
発行／岐阜協立大学総務企画課　発行日／2026年10月9日　印刷／株式会社ダイキュー

ともに立ち、向かう
岐阜協立大学
GIFU KYORITSU UNIVERSITY

経済学部［経済学科／公共政策学科］
経営学部［経営情報学科／スポーツ経営学科］
看護学部［看護学科］
大 学 院［経営学研究科］

〔ホームページ〕

北方キャンパス　〒503-8550 岐阜県大垣市北方町5-50
西之川キャンパス　〒503-8554 岐阜県大垣市西之川町1-109